

一般財団法人ニッポンハム食の未来財団

平成29年度 研究助成

助成対象期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

食物アレルギーに関連する知見獲得、問題解決を目指す
研究者及び研究グループに対する助成事業です。

対象研究領域

- 1.食物アレルギー対応食品に関する研究
- 2.食物アレルギーの予防に関する研究
- 3.食物アレルギーの診断・治療に関する研究
- 4.食物アレルギーに関する工場内等での衛生管理に関する研究
- 5.食物アレルギーに関するその他研究

上記領域はすべて重要ですが、特に「1.食物アレルギー対応食品に関する研究」や「2.食物アレルギーの予防に関する研究」の応募を歓迎いたします。

募集締切

平成28年9月30日(金) 消印有効

助成区分及び 助成件数等

※平成28年度実績：採択件数(共同研究:7件、個人研究:18件)、
助成金総額 約6,323万円

共同研究

上限600万円×5件 (予定)

- 専門領域を異にする複数の研究者(※)が、同一テーマに関し、広範に共同研究する場合を対象にします。
- 代表研究者の他に分担経費が100万円(税込)を越える共同研究者が一人以上加わることが必要です。

※同一機関(大学等)の同一部署(学部等)に所属する者を共同研究者に指名することはできません。なお、異分野、他機関との積極的な交流を期待しています。研究体制に食品科学の研究者が入り、医学、薬学、保健、栄養等、異分野かつ他機関が参加していることを歓迎いたします。

個人研究

上限200万円×15件 (予定)

- 若手研究者(平成28年4月1日時点で45歳以下)による単独研究を対象とします。

なお、提案内容等が適切であれば、新たに「食物アレルギー」に取り組む研究者も積極的に支援したいと考えています。

その他にも募集条件等があります。詳細は当財団ホームページの募集要項をご確認ください。 <https://www.miraizaidan.or.jp>

【問い合わせ先】

一般財団法人ニッポンハム食の未来財団
〒305-0047 茨城県つくば市千現2-1-6
つくば研究支援センター A-24
電話：029-893-4466
E-mail：info@miraizaidan.or.jp



ニッポンハム
食の未来財団



平成28年度 研究助成課題 (助成対象期間：平成28年4月1日から平成29年3月31日)

【共同研究助成 (7件)】

50音順、敬称略

	代表者	機関名	研究課題名
1	今井 孝成	昭和大学 医学部 講師	栄養士食物アレルギーに関する卒前卒後教育の充実のための基盤的研究
2	遠藤 隆	龍谷大学 農学植物生命学 教授	小麦アレルゲンを欠損したパンコムギ系統の実用化に向けた調査
3	林田 直樹	山口大学大学院 医学系研究科 講師	食物アレルギーにおける免疫系転写因子 NFATc2 の役割の解明
4	藤澤 隆夫	国立病院機構三重病院 院長	重症鶏卵アレルギーに対する経皮免疫療法の有効性と安全性に関する研究
5	松本 健治	国立成育医療研究センター 研究所 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発
6	村田 幸久	東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断マーカーの探索と応用
7	柳田 紀之	国立病院機構 相模原病院 医長	鶏卵粉末を用いた標準化された食物経口負荷試験の確立に関する多施設研究

【個人研究助成 (18件)】

50音順、敬称略

	代表者	機関名	研究課題名
1	青木 綾子	東京大学大学院農学生命科学研究科 特任助教	膜小胞「エキソソーム」を介した経口免疫寛容誘導機構の解析
2	芦野 滋	東京女子医科大学 助教	ウコン由来成分クルクミンによる食物アレルギー改善効果
3	東 恭平	千葉大学大学院薬学研究院 助教	免疫調節活性を有する腸内微生物由来コンドロイチン硫酸代謝物の探索
4	伊藤 亮治	公益財団法人実験動物中央研究所 博士研究員	ヒト化マウスを用いた食物アレルギーモデルマウスの開発とアナフィラキシー制御の研究
5	笠倉 和巳	東京理科大学 基礎工学部 学術振興会特別研究員 PD	腸内共生菌及びその代謝産物によるマスト細胞の機能制御機構の解明 - マスト細胞活性化依存的な食物アレルギーの根治法の開発をめざして -
6	片山 茂	信州大学 農学部 准教授	IgA 産生促進作用を有するリン酸化蕎麦アレルゲンの創製とその応用
7	河北亜希子	福井大学医学部附属病院 特命助教	経皮感作による食物アレルギー発症機序の解明と予防・治療法への応用
8	北口 公司	岐阜大学 応用生物科学部 助教	腸管免疫系におけるペクチン認識機構の解明
9	佐藤 陽	いわき明星大学 薬学部 助教	ビオチニル化ペプチドを用いた新規アナフィラキシー治療薬の開発
10	清水 裕	北海道大学 大学院 水産科学研究院 技術専門職員	魚肉主要アレルゲンであるパルプアルブミンの消化吸収動態の解明
11	下里 剛士	信州大学大学院 農学研究科 准教授	免疫抑制型オリゴ DNA を有効成分とする食物アレルギー予防素材の創製研究
12	立花 雅史	大阪大学大学院 薬学研究科 助教	アレルゲンに対する免疫寛容を誘導可能なアデノウイルスベクターの開発
13	土屋 創健	熊本大学 生命科学研究部 講師	シングルセル解析を用いた食物アレルギーモデルにおける in vivo マスト細胞の亜集団解析
14	永井 晶代	藤田保健衛生大学 医学部 講師	プロテオミクス的手法を用いた魚アレルギーの新規診断マーカーの確立
15	中村 勇規	山梨大学大学院 総合研究部 講師	概日時計による食物アレルギーの調節機構の解明
16	本間 哲也	昭和大学 医学部 助教	アニサキスアレルギー患者におけるアニサキスアレルギーコンポーネント測定の意義
17	村上 太郎	大阪市立環境科学研究所 研究員	プロアントシアニジンを含む食品からの小麦タンパク質の検査法の改良
18	谷田 守	金沢医科大学 医学部 講師	アナフィラキシー低血圧時における交感神経制御機構の解明

当財団のWebサイトから研究課題概要をご覧ください。 https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2015/02_result.html



ニッポンハム
食の未来財団

電話：029-893-4466

E-mail：info@miraizaidan.or.jp